



区政レポート[2007秋号]

杉並区議会議員

杉並わくわく会議代表

松尾 ゆり

2007. 11. 9. 発行

連絡先:

杉並区下井草1-25-36

tel&fax 03-5930-3181

ホームページ:

<http://www.suginami-waku2.net/>

秋深し。政治の混迷がつづきます

秋も深まってきましたが、いかがおすごでしょうか。さきに、安倍前首相がいきなり政権を投げ出したときにもびっくりしましたが、今回は突然の「**大連立**」提案に、民主党・小沢代表の辞任騒動。「**給油**」継続をめぐる起きたこの騒動。「**政権交代**」「**二大政党**」と叫んでいた人が、「日米同盟」のためならどんな妥協も辞さないことがよくわかりました。参議院選挙で示された「政治を変えたい!」という有権者の思いは行き場を失います。

在日米軍基地再編をめぐるっては、岩国、名護、座間市など再編に反対する市には「再編交付金」を渡さないという「**兵糧攻め**」が行われます。「基地強化反対」という民意はここでもないがしろにされています。

いよいよ新しい政治を私たち市民自身が作っていかなくてはならないと思います。地域のみなさんと一緒にがんばります!

負担は増え、サービス削減

～杉並区昨年度決算より～

9月27日から10月17日まで杉並区議会第3回定例会が開催されました。今回の議会は昨年度の区の決算を審査することが主なテーマでした。松尾ゆりが見た昨年度の杉並区の財政のすがたをお伝えします。

●増税で増えた区の収入、財政規模最大に

歳入・歳出とも規模が過去最大級、最終的な決算の規模は1500億円となりました。翌年への繰り越し分は史上最大の83億円。さらに基金(区の貯金)の残高が570億とこれも過去最高です。

財政規模がふくらんだ大きな理由は増税。昨年度、定率減税の縮小、および、高齢者控除の廃止、年金控除の縮小などが行われ、特に高齢者に対する大幅増税となりました。国の税制の変更とはいえ、区民の負担は大幅に増えています。

●負担が増えた区民への救済策はどこへ

区の貯金が過去最大という「がんばったじゃない」と思ってしまいます。でも、区の財政は住民が払った税金を、公共の住民サービスとして毎年還元していくのが原則です。そこは家計や企業とは違います。税金

です。ですから、ため込めばいいというものではありません。

税金や医療費、介護保険料などの引き上げで区民生活は圧迫される一方、区は収入が増えたのだから、福祉など、なんらかの措置で区民の負担を軽減すべきだったのではないのでしょうか。しかし、区民サービスの向上よりも、貯金に励んだのが昨年の杉並区政でした。

●福祉サービスの切り捨て

昨年度の介護保険制度改正と前後して、国のいわゆる「適正化」、つまりサービス支給の制限が強まりました。中でも杉並区は「適正化」が非常に厳しい区として知られています。昨年来、多くの高齢者の方々から「介護保険料がこんなに上がったのにサービスは逆に受けられなくなった」「家族が同居しているからとサービスを打ち切られた」という声をたくさんうかがっています。

他区ではむしろ、介護保険の問題点を補う努力をしています。例えば渋谷区では、要支援の人など介護保険サービスでは不足の人のために、サービスを上乘せする独自の施策を決定しました。杉並区ではそのような検討すらされていません。

●産業、労働に冷たい区政

杉並区の産業対策の予算は23区でも最低レベル。「商工費」は2番目です。(23区平均は1.6%。最高は台東区の6.3%、杉並区は0.6%)

2003年につくられた「産業振興計画」ではたとえば、商店街満足度60%、製造業800社の維持、新規創業1000事業所などの目標が掲げられましたが、前半期が終了した昨年度時点で、数値はどれも未達成。また、労働相談などの労働政策も申し訳程度としかいえないわずかな事業量。

杉並は住宅都市なので、産業政策は軽くてもいいという考え方もかもしれませんが、それにしても、区民の営業と労働にこれほど無関心な区もありません。

●減らされた教育予算

一般会計に定める教育費の割合を計算してみると、山田区長になってからの平成12年度以降の7年間は平



均14%、それ以前の8年間は20%と、歴然と違います。金額にすると平均70億円ほどの差があります。だいたい4分の3に減ってしまった勘定です。山田区政のもとの学校は、予算を減らされる一方で成果を上げることを要求されています。

他方、区は地域のボランティアに学校図書館の管理運営や芝生の整備などを任せていく方針です。区が予算を減らし、人を減らして撤退していったあと、地域のボランティアに埋めてもらうのでは、区政の尻ぬぐいのような感を否めません。

●時代おくれの「学校適正配置」

神明中、宮前中の統合問題が焦点になっていますが、むしろ「適正配置」の考え方、つまり学校をつぶして「あと地利用」で公共事業を行うという考え方自体がすでに時代遅れになっています。現在の学校数でゆとりある教育を行う方向への根本的転換が必要です。

■以上の問題点を指摘して、杉並わくわく会議として、昨年度決算の認定に反対しました。

<松尾ゆりの一般質問より>

今回の一般質問では、1. 杉並病について 2. 清掃行政について（家庭ごみ有料化など） 3. 教育行政について（学校統廃合、学校図書館など）の3つを質問しました。傍聴に来てくださった皆様ありがとうございました。今回は杉並病被害者の方も来ていただきました。

●杉並病について

「杉並病はいまだに解決しておらず、**区長の公約違反**ではないか？ 政治家としての区長個人の問題だから、本人が答弁してください。答弁しないということは、私の見解に反論しないと受け取りますよ」とまで言ったのですが、区長は黙殺。

かわりに答弁にたった部長は「役所は区長の意を体して答弁しているのですから、その点誤解のないように」。言ってて情けないでしょうね。



区長選挙のちらしを示して質問

選挙公約を翻すのはどこかの知事とも似ていますが、区民、なかでも被害者の切実な願いをふみにじり、答弁では部下を矢面に立てて恥ずかしくないのか。52万区民の生命・財産を守るべき区長の資格なしです。**本人も反**

論しなかった「公約違反」として、皆様に広くお知らせさせていただきます。

現在、全国各地でプラスチックの再資源化のための圧縮施設が建設され、それに対し「**杉並のようになるな**」と反対運動が行われています。その原点である杉並病に対して、**原因糾明と健康調査の実施**、さらに**被害者の救済**を行うことは、杉並区に課せられた**歴史的責務**といえます。今後とも追及していきます。

●学校適正配置（統廃合）について

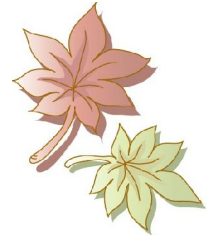
6月議会では、学校統廃合が大きな話題になりました。文教委員会では、全会一致で「再編構想について、区民意見の提出手続きをとり議論をつくす」つまり**区全体の議論が先**、という趣旨の請願が採択されました。

ところがその後、教育委員会は、当該（神明中・宮前中）地域周辺の来春新入学予定児童の家庭に対して、まだ**決定していない計画素案の送付**や説明会を行いました。**フライング**です。

神明中の地元関係者からは「統合が決まったものとして意識され、希望者の心を**動揺させる意図的な行為**」であると抗議文が出されました。

私は、こういうやり方は、地域の思いや、議会の意思を踏みにじるものではないか、と質問しました。

その結果、文教委員会では、議員から「**議会軽視**ではないか」との発言があり、教育委員会は「誤解を招いた」と議会に陳謝しました。



●学校図書館について

学校図書館のIT導入で混乱がおきています。1冊ずつデータを入力してバーコードと一致させる膨大な作業を、なんとお金をかけずボランティアにやってもらおうという区への考え方はムリがあります。

また、学習を支える柱ともいべき学校図書館には、専任の司書を置くことが望まれます。先進的な自治体では、すでに全校に司書配置したところもあります。

第三回定例会では議員提案により

◎**沖縄「集団自決」をめぐる教科書問題での意見書**を採択しました（松尾ゆりは賛成しました）
沖縄県民の声に答えるいっそうの行動を「教科書問題の杉並区」の私たちは求められています。

◎**オリンピック開催を求める決議**を採択しました（ムダづかい！ 松尾ゆりは反対しました）
会派間で意見が対立していたため保留となっていたのに与党が見切り発車。議長をのぞく47名の議員のうち15名が反対しました。